



多数の太陽光発電パネルが稼働している
埼玉県本庄市の本庄第1~3工場



持ち株会社KYORITSUとして新たにスタート

2025年3月までに売上高500億円 成長戦略投資30億円 当期総還元性向50%以上

2022年10月1日にKYORITSUをもち株会社とするホールディングス体制へ移行した。「印刷」「BPO」「デジタル」「環境」を合わせた四つの事業領域で、さらなる企業価値向上とESGの取り組みの強化を図っていくという。景山豊社長にその経緯と今後の事業戦略について語ってもらった。

共 立印刷の設立は1980年。創業者である野田勝憲氏（現・KYORITSU会長）の「日本一品質の高い印刷会社をつくる」という挑戦から始まった。

「お客さまの大切な販促物を制作させていただくに当たって、品質は何より重要で、その思いは今でも変わりません。そして、私が社長に就任した2021年4月からは印刷事業の構造改革を進める一方で、環境に特化したM&Aや既存デジタル媒体の強化にも着手してきました。25年3月までに売上高500億円、そのための成長戦略投資30億円を達成するべく、私たちはKYORITSUとして新たなスタートを切りました。」

「印刷」「BPO」「デジタル」「環境」を合わせた四つの領域に注力し、さらなる事業強化を図っていく。景山豊社長はそう話す。

「印刷」に「BPO」「デジタル」を合わせた「環境」を強化する。専門のグループ会社として、2022年10月には自社投稿サイト「SPOTWRITE」を稼働させた。「当サイトでは、出版社や電子書店、作家の方々のあらゆる依頼に応えるために、企画から編集、制作、配信、商品化まで幅広いサービスを展開していきます。さらに作家や作品の発掘・育成など、IP（知的財産）事業の役割も担うことが大きなポイントです」

業拡大を図っていく。

デジタル事業のM&Aやデジタル媒体の強化も

「印刷事業」においては、もう一度原点に立ち返るために、「基本の徹底」「魂込めて品質保証」「変化への対応」から成る「共立印刷 基本3原則」を策定した。約3万坪の敷地面積を持つ本庄工場（埼玉県本庄市）を中心に、大口カタログや書



KYORITSU 景山豊 代表取締役社長 兼 COO



KYORITSUグループの今野が製造する生分解性マルチフィルムは、トマトなどの栽培に広く使われる

籍・雑誌、折り込みチラシなどを、企画・制作から印刷、製本、加工、管理発送まで一括して行う総合印刷事業を全国で展開している。

「原材料費や原燃料費の無駄をなくすために、本庄工場の屋根には太陽光発電パネルを設置しました。23年1月の本格稼働を予定しており、これによって工場電力使用量の10%弱が再生可能エネルギーで賄えるようになります」と景山社長は説明する。

西日本エリアの取引先の業務は、印刷物の長距離輸送を避けるなど環境負荷を低減し物流効率を高めるために、グループ傘下の西川印刷（本社・熊本市）を活用することも多い。

販促物のプロとして顧客の課題解決に取り組んできた実績と

「ノウハウを生かし取り組んでいるのが「BPO事業」である。ビッグデータやDX（デジタルトランスフォーメーション）を駆使して、ターゲットをきめ細かく絞り込んだ販促物の提案から製作までを一貫して行う。」

「例えば、20万部・20万種類のカタログやチラシなど、購買履歴や商品単価を分析して、お客さま一人一人に異なる販促物を作ることも可能です。多品種大量ロット印刷は当社が最も得意とするところで、お客さまの課題に真摯に向き合い続けてきたからこそ実現したサービスといえます」

電子書籍市場で注目の縦読みコミックスに進出

そして、今後大きな成長が期待されるのが「デジタル事業」だ。既存のデジタル事業を強化するとともに、電子書籍市場で注目されるタテスクロールコミックス分野にも進出する。専門のグループ会社として、2022年10月には自社投稿サイト「SPOTWRITE」を稼働させた。

待されるのが「デジタル事業」だ。既存のデジタル事業を強化するとともに、電子書籍市場で注目されるタテスクロールコミックス分野にも進出する。専門のグループ会社として、2022年10月には自社投稿サイト「SPOTWRITE」を稼働させた。

「当サイトでは、出版社や電子書店、作家の方々のあらゆる依頼に応えるために、企画から編集、制作、配信、商品化まで幅広いサービスを展開していきます。さらに作家や作品の発掘・育成など、IP（知的財産）事業の役割も担うことが大きなポイントです」

従来の漫画は、1人の作家が絵を描き、ストーリーも考えていたが、タテスクロールコミックスでは分業制が取られ、ストーリーを作る人、絵を描く人、色を塗る人がばらばらで、一つのチームとして作品を制作している。SPOTWRITEでは、「絵は描けるけれど、ストーリーは苦手」、あるいは「ストーリーの構想はあるけれど、絵を描くのは苦手」といった作家も募集し、一つの作品に仕上げしていく。

「戦となる。この事業で取り扱うのは、農業用の生分解性マルチフィルムで、21年7月にグループ傘下に収まった今野が製造する。生分解性マルチフィルムは、微生物の働きによって、使用後は水と二酸化炭素に分解される環境配慮型のプラスチック製品だ。」

「農家さんの回収作業の省力化や働き手不足の問題解決を目指すと同時に、地域社会や環境への貢献を図ります。将来は、農業分野で生分解性フィルムを活用した新しい製品やソリューションも展開していく予定です」

本庄工場の敷地内に、今野の工場を新たに移設し、生産能力を上げて、売り上げも伸ばしていく方針で、そのために在庫保存ができる技術も開発した。

社会構造の変化やデジタル化の進展などにより、印刷市場そのものは縮小傾向にある。それ自体は課題であるが、一方で環境変化は自社の技術やノウハウを別領域に広げるチャンスと景山社長は捉えている。

「持ち株会社体制への移行に当たり、KYORITSUは『本質を見抜き、感謝を忘れず、挑戦

「印刷事業」においては、もう一度原点に立ち返るために、「基本の徹底」「魂込めて品質保証」「変化への対応」から成る「共立印刷 基本3原則」を策定した。約3万坪の敷地面積を持つ本庄工場（埼玉県本庄市）を中心に、大口カタログや書

「継続する」という社是を新たに作り直した。既存事業にとどまらず、新しい分野にも挑戦し続けて時代の変化に対応することで、企業価値向上と持続的な社会の実現に貢献していきます」

こう話す景山社長は、3年後の業績数値目標と総還元性向50%以上といった株主還元目標を達成するために、同社グループの全てのステークホルダーとの関係を強化するべく、全社一丸を訴えている。



2023年7月落成予定の本庄第4工場（外観パース）



タテスクロールコミックスの自社投稿サイト「SPOTWRITE」
<https://www.spotwrite.site/>

「持ち株会社体制への移行に当たり、KYORITSUは『本質を見抜き、感謝を忘れず、挑戦

問い合わせ先
株式会社 KYORITSU
〒174-8860
東京都板橋区清水町36-1
Tel. 03-5248-5550
<https://www.kyoritsu-hd.co.jp/>